

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171000217		
法人名	英和株式会社		
事業所名	ぼっかぼか		
所在地	埼玉県八潮市大字八條50番地		
自己評価作成日	令和 2年 1月 7日	評価結果市町村受理日	令和 2年 4月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和 2年 2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活支援、自立支援を職員が理解し日常生活において掃除、洗濯、調理等一人ひとりの残存機能を活用していただけるよう入居者様に合った介護を行っている。ご入居者様が馴染みのある空間となるようご本人の意思、ペースを尊重し、その人らしい生活を送って頂く為に馴染みの家具を配置する等、今迄の生活大切に出来るようコーディネートしている。くつろぎの空間として、和室、中庭がありますがお茶を飲んだり、日向ぼっこをしたりと、入居者様同士の交流の場となり、のんびり過ごされています。外出の機会を持ち近くの公園へ出かけたり、買い物に出かけている。昨年はサーカス見物もした。室内行事としては、春祭り、夏祭り、花火大会、敬老会等、生活の中で季節を感じて頂けるよう沢山の行事をおこなってきた。市内、町会のお祭り等に参加し地域との交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者に「ゆったりとしたやすらぎのある暮らし」「地域に密着した事業所」を理念に掲げ様々な取り組みを行っている。地域の公園に桃を寄贈し毎年利用者と花を見に出かけたり、市民ホールで開催される歌の祭典に出演したりしている。中庭には、ベンチや小径があり外気浴やリハビリに利用している。花壇には、草花や野菜、桜やバラ、ぶどう棚もあり、季節ごとに楽しませてくれる。バラをお風呂に浮かべたり、収穫した瓢箪は制作に使用され、収穫した野菜はぬか漬けにした。近隣の人を招待してBBQも行われている。利用者が利用者をもてなすラーメン屋さんや喫茶店を行事として開くなど、役割を持った生活を送っている。永年勤続職員には商工会と連携して表彰したり、外部財団の視察旅行に派遣している。永年来訪するボランティアに対しても商工会に働きかけ表彰を行った。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は常に職員が確認できるよう玄関、エレベータ前に設置している。理念を理解実践できるよう勉強会を開催している。	開設以来の理念を大切に、会議や勉強会等で全職員に浸透を図っている。玄関や廊下に掲示し常に目にするようにし、頻りに声掛けしたり、あえて遠位の見守りをしたりと利用者にあわせた支援を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的な運営推進会議の開催を行い地域の情報交換を行っている。町会に加盟し町会行事にも参加している。地域包括支援センターのオレンジカフェに参加している。施設行事には地域のボランティアにも参加して頂いている。	町会に加入して地域の祭りに参加したり、中庭で行われるBBQには、地域住民を招待している。ボランティアによるフラワーアレンジメントは10年以上継続しており、毎年行われる音大生によるコンサートは好評である。	これまでも老人会への講師派遣等の交流を広げてきた。日常的にボランティアを受け入れ、地域住民との相互支援の関係を構築し、あわせて認知症の理解への取り組みを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や運営推進会議を通じて、地域交流を深めて頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	情報を頂いて、防犯、防災対策にいかしている。	2か月毎に年6回、家族・3か所の町会長・地域包括職員等が参加し開催している。活動報告や行事予定、地域情報について話しあわれ、地域の防犯対策については、事業所の防犯カメラの活用が話し合われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センター職員や、市の職員に参加頂いている。地域密着サービス事業者連絡会議に参加し、情報交換し協力関係の構築に努めている。	介護相談員の巡回があり、市との橋渡しの役割を果たしている。報告・相談等で市担当者と面談したり、市主催の研修や連絡会には参加している。地域包括職員ともオレンジカフェや運営推進会議で顔みしりである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けている。勉強会やカンファレンスを開催し、職員全員が理解するよう努めている。	年2回の勉強会は、職員が輪番で資料準備から行っている。3か月毎に法人内5事業所合同の適正化委員会があり、どのようなことが身体拘束に当たるか多方面から話し合われている。理念にも身体拘束廃止を掲げており職員は常に意識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス、勉強会の場において事例検討や勉強により、虐待防止を職員全員が理解できるように努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用しているご入居者様に、必要な際に説明することで、お互いに知識理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不安や疑問が残らないよう十分な説明を行っている。改定は書面でお知らせをし、必要に応じて説明をしている。署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様には希望、意見を言えるように関わり方雰囲気づくりに努めている。ご家族、友人との手紙の取り次も行っている。ご家族とは電話、面会時にコミュニケーションを図り、意見を伺っている。玄関に意見箱を設置している。	玄関には、意見箱が設置してある。巡回する介護相談員が、利用者との橋渡し役となり意見を事業所に伝えている。行事に家族を招待し直接会う機会を増やし、普段の会話から意見を聴いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は意見箱や、必要時カンファレンスを開催し、日々の業務においても随時意見交換し、必要に応じて個人面談を行っている。	毎年の個別面談や会議の場以外でも普段から意見を聞くようにしている。代表者への直接メールボックスがある。行事・外出先等は職員が企画・運営している。加湿器の増設要望に応えたり希望休にも対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の意見や勤務評価を行い職場環境や条件に配慮できるよう努めている。3・5年勤務表彰、商工会の永続勤務10年表彰を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修や資格取得を奨励している。取得補助や給付を行い、資格所得を支援している。民間社会福祉施設永年勤続職員視察研修事業に参加した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着サービス事業者会議や地域の協議会を活用して交流、情報交換を積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にアセスメント情報を確認し、ご入居者様と関わっている。コミュニケーションを図り傾聴を多くとるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の話し合いによってご意見、ご要望を十分聞き取るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の十分な聞き取りに基づいて、サービスを検討、ケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの理念に基づき過度な介護や介入をせず、入居者様の生活により添う意識を持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的には手紙で報告を行っている。必要時には病院受診に家族と職員が一緒に同行したり、電話連絡や面会時にコミュニケーションを図り、意見交換をしながら連携を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ハガキや手紙、電話の取次ぎを行ったり、ご家族、友人との面会外出をしている。	知人の来訪や年賀状のやり取り、好みの新聞を購読している方もいる。これまでの美容院に通っている方もいるが訪問理美容師も10年来の関係である。家族との外出時に好物の煎餅を購入している人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況に応じた介入を行い、元気なご利用者様が元気がないご利用者様に話しかける等して頂いている。利用者様同士が円滑な関係を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも気軽に相談できるような環境づくりを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重すべく、日々コミュニケーションを通じて希望や意向の把握に努めている。買い物や受診の希望等、ご家族と連携を取り把握に努めている。	生活歴・言動・家族情報から意向を把握するようにしている。情報は、カードックスや送りノート、月次報告書等で共有している。表現の難しい方には、表情や行動から推察し、職員間で話し合い検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の聞き取り等を通じてサービス利用の経過、生活歴や環境の把握に努め、ケアに取り入れるよう努めている。馴染みの家具や仏壇を持って入居する方もいます。入居後もご家族と連携し、把握に勤めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録やカードックス、月次を作成し情報を共有。日々の申し送り等で特変事項をしっかりと申し送っている。往診医、医療機関とも連携している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや、月次を作成し、ケアプラン見直しの検討材料としている。ご家族や医療関係にも適時相談し、ケアプランに反映させている。	6ヶ月毎に見直している。計画作成担当者は、カンファレンスで職員・看護師等の意見を聞き、利用者が何をしたいか、可能なことを考え、音楽を聴く時間を計画に記入している。計画作成後、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やカードックスを作成して日々の様子を一目でわかりやすくしている。申し送り等で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員一人、ひとりの意見を検討しながらサービス変更も考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の往診医へ移行されるか入居前のかかりつけ医を継続されるか	かかりつけ医、提携医は選択可能である。医師には、往診記録を使い利用者の状況等を伝えている。職員に看護師が在籍し、また併設の通所介護にも看護師は在勤しており体調チェックや健康相談に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でご入居様の状態把握に努め、適時看護師に相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを提出。面会時には状態把握に努め、適時看護師に相談できている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、週末期の際の契約を書面で交わす。重度化、終末期に到る状況においては適時ご家族、往診医と相談し、ケアの方針を進めて行く。	入居時に、重要事項説明書・指針にもとづき説明している。家族から終末期までとの要望はあり、看取りの経験がある。家族・医師・事業所の三者面談を行い事業所として出来る事、出来ない事を説明している。家族の方針変更にも柔軟に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員の資格取得をめざし、救急救命講習を受講させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各ユニットにマニュアルが設置されており、年二回防災訓練を行っている。	年2回避難訓練を行い、うち1回は消防署立会いで助言を受けている。火災・水害・地震マニュアルは整備されている。水害ハザードマップで、避難場所と事業所の高低差を確認し実態にあった避難方法を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した声掛け、声のトーンにも気を付けている。	年間計画に研修は組み込まれている。個人記録は施錠式書架に収納し、申し送りは事務所内で行っている。ボランティアや見学者とも個人情報保護の同意書を交わしている。声掛けは、場所やトーン等に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で入居者様の好き嫌いを把握し、コミュニケーションに努め希望を表しやすい環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の予定をコーディネートしつつ、本人のしたい事、意見を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みで服が着られるよう一緒に買い物したり、化粧品を揃えたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を取り入れた食事を提供している。目で見て楽しんで頂けるよう盛り付けに工夫をし、又一人ひとりが作業できるメニューも取り入れ、ADL低下の予防に努めている。山東菜を漬ける。	利用者も調理や洗い物を手伝っている。職員と一緒に献立から考える昼食が毎週あり、麺類が好評である。毎夏、庭の菜園で収穫した野菜をぬか漬けにしている。季節により、お節料理や恵方巻等が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を常にチェックし、無理の無い提供が出来る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行うよう促しており、適時介助にて口腔ケアも行っている。毎食後義歯消毒も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、タイミングを見てまた、羞恥心にも配慮してトイレの促しを行っている。	排泄チェック表を利用し、トイレでの排泄が行えるよう支援している。場所が分かり易くなるよう、張り紙や横出し看板を出している。夜間は、時間で誘導したりポータブルトイレ対応をしている人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の体操や、レクリエーションを行う事で便秘予防に努めている。往診医にも相談できている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があれば入浴できるよう、環境作りに努めている。	週2回の入浴であるが、増回は可能である。拒否の強い人には、時間や職員を替えたりし対応している。庭で咲いたバラを利用しバラ風呂を楽しむこともある。好みの石鹸・シャンプーを利用している人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	健康的な生活のリズムを促しつつ日頃の関わりを通してご入居者様の体調、体力の把握に努めることで、適度に休息や昼寝を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の変更時は周知の徹底を図り、様子観察をし、変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事や、季節毎のイベント、カラオケ、懐かしの映画館等、メリハリのある生活支援が出来ている。春秋のバーベキューは恒例。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	物品の購入や受診の希望等、ご家族と協力し希望の実現に努めている。天候や体調等を考慮しながら散歩やドライブ等外出できている。中庭でのティータイムを楽しみながら外気浴も行っている。	近隣の介護施設の花壇や神社、田んぼを巡る散歩コースは好評である。庭のベンチで、ひなたぼっこや一緒にうたを歌ったりと外気に触れている。職員と買い物に出かけたり、通所施設を利用している人もいる。季節には、桃や桜を見学に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食や買い物等で、商品を選び、購入していただく機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙の取次ぎは行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の装飾に季節感を取り入れる事で雰囲気演出に心がけている。照明や室内の温度にも配慮できている。	フロアでは、カラオケや体操が行われ、洗濯物をたたむなどの日常生活が営まれている。場面によりBGMを変えている。ソファのスペースや堀りごたつのある和室があり、ひなたぼっこや午睡に利用する人もいる。テラスもあり、夏は花火大会が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファや和室とスペースを確保しており、居室も含めて好きな場所でくつろいで頂けるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具等を持ち込んで頂き、安心感や居心地に配慮している。	家族の写真や自らの作品を飾ったり、鏡台や筆筒を持ち込んでいる。好きな本を読み、音楽を聴いたり個人の空間を楽しんでいる。仏壇を置いて毎日水を変えている人もいる。希望により夜間の照明をフットランプに変更している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレの場所が分る環境作りが出来ている。		